



パラオ通信

No. 21 / 2/20/2020

JICA 海外協力隊 SV 天野久雄

今回はバベルダオブ島にあるアイメリーク小学校を紹介します。アイメリーク州はバベルダオブ島の西端の密林山岳地帯で、マングローブが生い茂る海岸、開墾された農業地帯、起伏のある丘などがあります。規模としては各学年が1クラスの小さな学校です。

「パラオ通信 19」の写真で紹介しましたが、校舎の改修やスクールバスに日本が資金援助をしています。とくに広い野球場があり、体育や昼休みの時間に子供たちが野球をしています。コロール島に近いので、卒業したらパラオ高校にスクールバスや保護者の車で通います。自分で車を運転して通う高校生もいます。



4年生以上のクラスは、数学と英語が教科担任制になっています。パラオの多くの小学校は、学級担任である一人の先生が5教科を教えます。アイメリーク小学校では、英語や数学の指導が上手な先生が他の学年も教えるのです。水曜日は特設授業が組まれています。英語と数学の基礎学力や応用力をつけさせる授業です。先生たちは授業アイディアを出し合って学力向上を目指しています。では私が去年の12月に学校視察をした時の授業を紹介します。

授業では、生徒のアクティビティを重視しています。日本ではあり得ないことも…。

右の写真は何をしている授業かわかりますか。6年生が角度の学習している様子です。なんと、教室の床に大きな円を描いています。その中に120°や270°の線を引いています。

時計の針では、ちょうど4時や9時のところです。教師の床にマーカーで線を引かせて教える授業なんて、日本の小学校ではありえません。子供たちが面白がって休み時間に落書きをするからです。黒板に落書きした時も厳しく注意します。



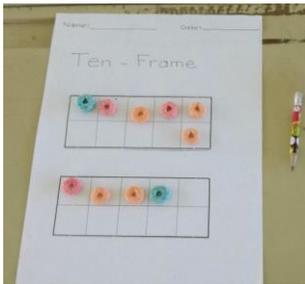
右端の大きな女性が先生です。授業を始める前にマーカーで基本となる線を描いておきました。それを使って90度より大きな角の線を書き込んでいる様子です。

このとき私は、どのようなアドバイスをしようか迷いました。「床でなくホワイトボードやノートに書かせた方が良い」と言うべきか、「アクティブに学習していました」と褒めるべきか。日本の小学校の視察をしたときなら、迷わず前者のように言います。

後日わかったのですが、アメリカの小学校であるようです。数学の授業を研究する大学や研究グループのウェブサイトで、いろいろ紹介されています。2月に教育省が開催した数学の研修会でも、アメリカ人講師が自慢げに紹介していました。私の常識が壊れました。

パラオの教室の床はタイル貼りで、ホワイトボードマーカーで書いた線はすぐ消せます。日本と違って落書きをする子どもは見かけません。もし書いてしまって先生に注意されると素直に聞き入れます。その点は大丈夫です。

落書きといえば、私は日本の中学校教師であった頃を思い出しました。梅雨時や雪が降る寒い時期に、水滴が付いた校舎の窓ガラスを指でなぞって生徒が落書きをします。私たちはそのシーズンになると生徒に注意して回りました。パラオは空気が乾燥していてガラスが曇りません。もちろん雪など降りません。その点でも大丈夫です。



左は小学一年生の授業の教材です。16+8のように、繰り上がり計算でプレイス・バリューという表を使います。この計算では、10の枠に1個、1の枠に6個のディスク(小さな円盤)を置きます。そのあとに8個のディスクを1の枠に置きます。そのあと1の枠にある10個のディスクを除いて10の枠に1個追加します。この操作を通して答えが24であることを教えます。そろばんを使った計算と同じです。

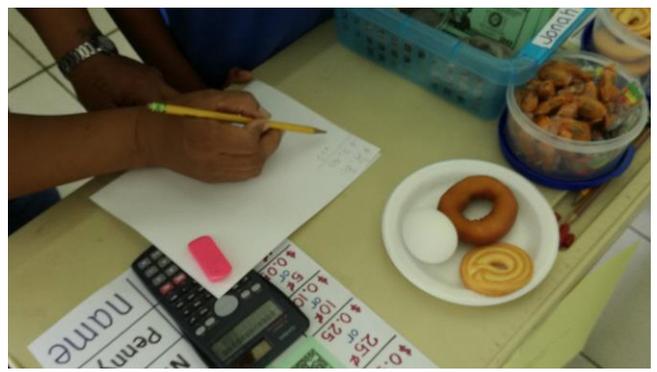
これを指導していた先生は、教育省が支給しているプラスチックのデスクでなく、丸い形のシリアルクッキーで教えていました。問題をやらせて正解した子には「食べていい」と許可を与えていました。もちろん子供たちは意欲的に勉強していました。

「正解したら食べさせる方法は教育上よいことか、私は疑問に思います」と私がいうと、「ダイジョウブ、これはシリアルだから」と彼女は食べて見せました。「ヒサオも食べてみて、どうぞ…」と渡してくれました。言い方が曖昧だったようで、私の真意は伝わりませんでした。これも日本の学校ではあり得ないでしょう。

水曜日の特設授業でも、生徒がダイナミックに学習しています。

もう1つ食べ物を使った授業を紹介します。日本の小学校でもよくする買い物ゲームです。日本では紙片に描いた商品やプラスチックの模型をよく使います。でもこの授業では実物を使いました。指導する2人の先生が家でクッキーやドーナツ、レモネード、紅茶などを作って持って来ました。そして最後にみんなで食べました。私も生徒役になって参加したので食べました。紅茶を飲みました。日本では食物アレルギーの事故防止などの理由で、授業中に食べ物は与えません。こちらでは心配はないと校長先生が言っていました。

パラオはアメリカと同じドル紙幣とセントコインを使います。クウォーター、ダイムなどコインの種類が少し複雑で、分数や小数の計算知識が必要です。そこで小学校の低学年で、お金の種類と計算方法を丁寧に教えます。



次の写真は1年生と6年生の合同授業です。前半は学年別の計算練習で、1年生は足し算と引き算、6年生は分数や小数の計算です。1年生の中には掛け算や割り算ができる生徒もいます。そのような子には掛け算や割り算の練習問題をやらせていました。掛け算や割り算には足し算や引き算が含まれていて、指導としては合理的です。

個人練習が終ると6年生がリーダーとなった小グループで授業は進みました。はじめは1年生に6年生の生徒が繰り上がりのある足し算の計算を教えます。先生による授業とは違った雰囲気でも学習していました。

その次は6年生をメインとした内容でした。斜面を転がるボールの時間を測定して平均を計算します。100分の1秒単位で測定するので、小数の足し算と割り算の応用問題となります。身のまわりの現象に数学を利用する体験学習です。1年生の子は6年生がしている計算に興味深く見ていました。計算を手伝おうとする子もいました。合同授業にはこのような効果もあります。先生たちはインターネットで公開されている情報を参考にしたそうです。

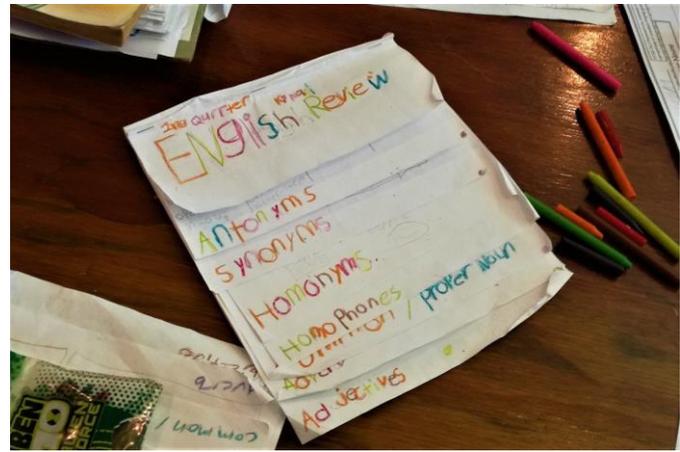


英語は1年生から指導に力を入れています。

パラオの小学校の授業で使う言葉は英語です。先生はパラオ人なのでパラオ語が話せますが、基本的には英語で授業を進めます。国語であるパラオ語の以外の授業では、使う教科書やワークブックは英語で書いてあるからです。そのため英語は低学年から必修科目で、先生たちは指導に力を入れています。文法もていねいに教えます。

次の写真は2年生の特設授業です。2時間続きで一般名詞と固有名詞についての学習です。後半はその応用をします。身近にある名詞を分類する作業です。

ホワイトボードに書いてありますが、パラオでは小学2年生で日本の中学1年から学習する名詞や動詞の単語を覚えて使います。



左は名詞の種類を分類して覚える授業の様子です。正面の壁には、以前に学習した形容詞と動詞を説明した紙が貼られています。

右は手作りの単語帳です。Antonym(反意語), synonym(同義語), homonym(同形同音異義語), homophone(同音異形異義語)など、詳しく分類した単語帳で覚えます。日本のでは高校入試で出されるような単語まで書かれていました。

おわりに

ここで紹介した授業については、私は全面的に肯定しているのではありません。よい点も悪い点もあります。その点をご理解ください。それとは別に、アイメリーク小学校の先生たちの熱意をどの学校よりも強く感じました。子供たちに確かな学力を付けさせるための研究を熱心にされています。私はその点を皆さんに伝えたいと思って本稿を書きました。

私の仕事は各学校を巡回して先生たちにアドバイスをすることです。どの授業でも、全面的に肯定することや否定することはありません。肯定的な場合は、もっと良くするための改善点や注意点を伝えます。否定的な場合は問題の指摘と別の指導法を提案します。日本の小学校や中学校で使っている教材を渡すこともあります。

いちばん大切なことは、先生たちの教育に向ける真摯な態度や努力を認めて励ますことです。悩みだけでなく不満や愚痴を聞くこともあります。そのときは懇談の時間を長くするように心がけています。そのような話にはパラオの教育制度や行政の問題が含まれています。

私はそれを整理して、教育省や JICA 事務所に定期的に報告や提案をしています。